

### 第3節 一人暮らし高齢者に関する意識

65歳以上の高齢者のいる世帯は、平成25（2013）年現在、2,242万世帯と、全世帯（5,011万2千世帯）の44.7%を占めている。特に65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女共に顕著であり、昭和55年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口（65歳以上）に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成22年には男性約139万人、女性約341万人、高齢者人口に占める割合は男性11.1%、女性20.3%となっている。

一人暮らし高齢者の増加に伴い、安全安心の確保、孤立化の防止、地域活動の活性化によるコミュニティの再構築を促進する必要がある。本節では、一人暮らし高齢者の生活上の心配ごとや困りごと等を始めとした意識について取り上げる。

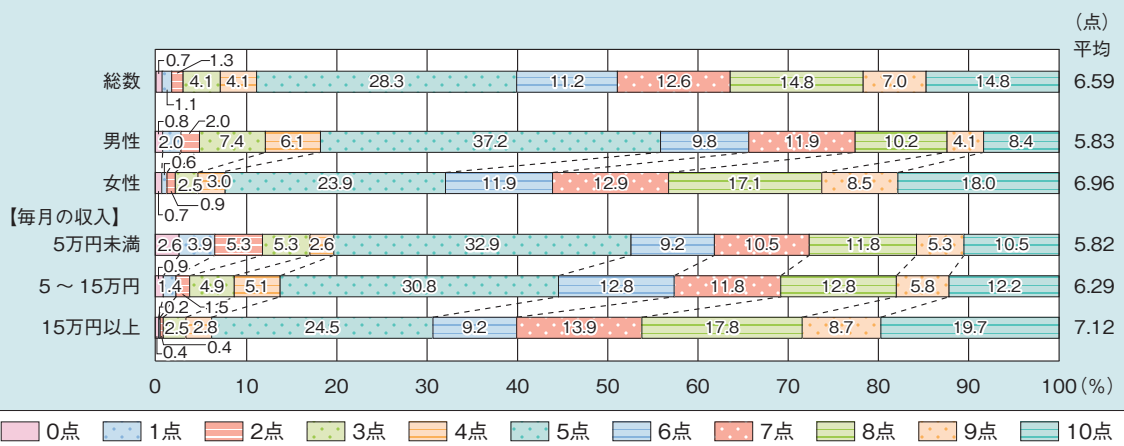
#### 1 幸福感、不安に関する意識

##### (1) 高い幸福度を感じる男性は、女性の半分

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、現在どの程度幸せと感じるかを見ると、平均は「6.59」点となった。0～4点の合計は11.3%であり、5点を選択する人が28.3%と最も多い。8点以上の割合を性別にみると、女性は10点（18.0%）、9点（8.5%）、8点（17.1%）で合計43.6%と、半数近くとなっている。男性は10点（8.4%）、9点（4.1%）、8点（10.2%）で合計22.7%と、女性の約半分となっている。

また、毎月の収入が多いほど幸福度が高いという傾向がみられる（図1-3-1）。

図1-3-1 一人暮らし高齢者の幸福度

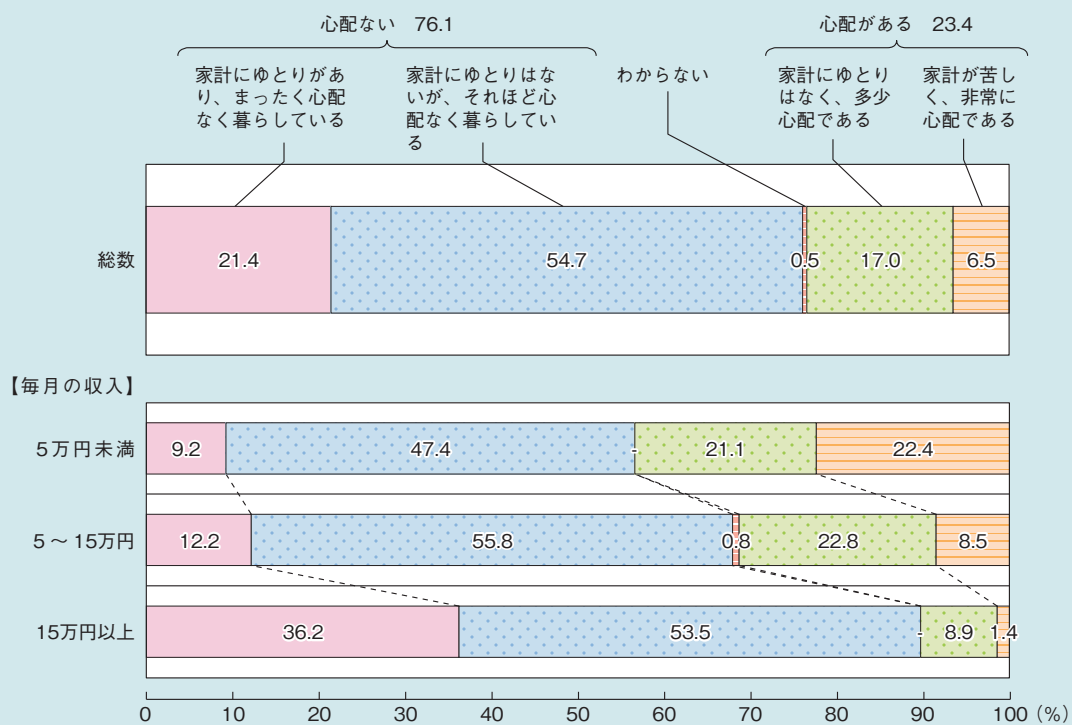


資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

## (2) 4人に3人は経済的な暮らし向きに心配を感じていない

現在の経済的な暮らし向きについてみると、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と「家計にゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」を合計した『心配ない』とする人の割合が76.1%、「家計にゆとりはなく、多少心配である」と「家計が苦しく、非常に心配である」を合計した『心配がある』とする人の割合の23.4%を大きく上回っている。毎月の収入別にみると、5万円未満の人の56.6%、5～15万円の人68.0%、15万円以上の人の89.7%が「心配ない」としている（図1-3-2）。

図1-3-2 現在の暮らし向き

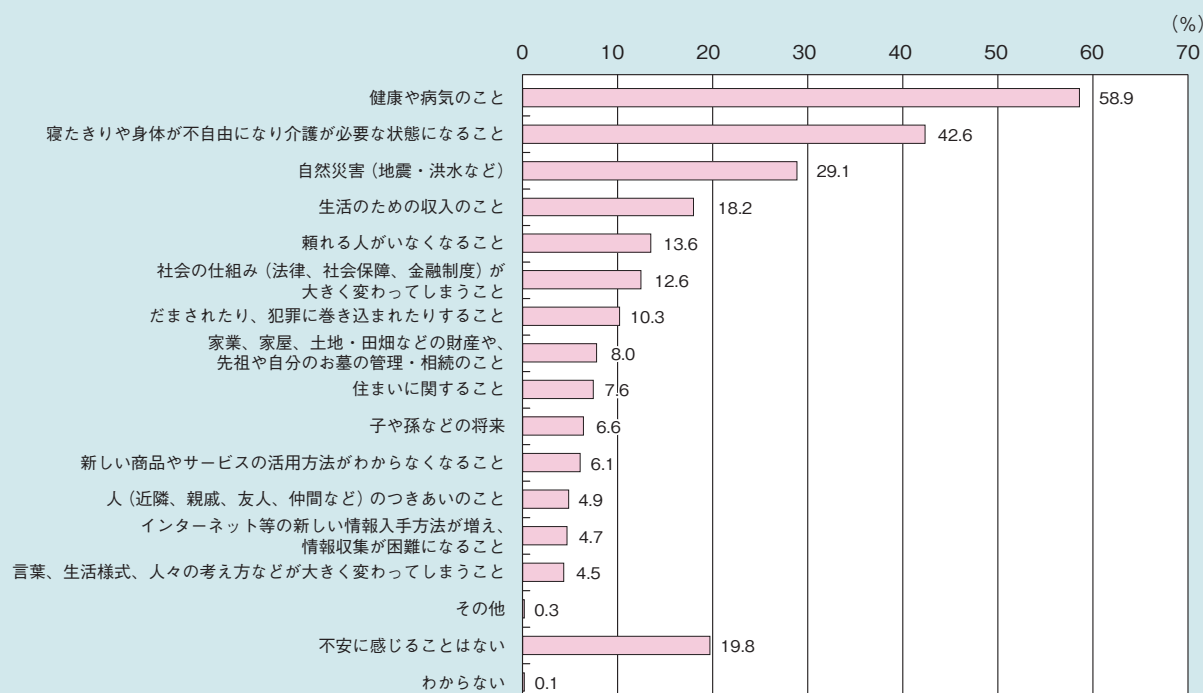


資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」(平成26年度)  
 (注) 対象は65歳以上の一人暮らしの男女

## (3) 日常生活の最も高い不安は健康や病気のこと

「日常生活の不安」についてみると、健康や病気のこと（58.9%）とする人が最も多く、次いで、寝たきりや身体が不自由になり介護が必要となる状態になること（42.6%）、自然災害（29.1%）、生活のための収入のこと（18.2%）、頼れる人がいなくなる（13.6%）となっており、一人暮らし高齢者のリスクとして指摘されている「介護」、「社会的孤立」、「貧困」に関連した不安が挙げられている。その中でも健康状態が大きな不安であることが分かる（図1-3-3）。

図1-3-3 日常生活の不安（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

多くの一人暮らしの高齢者にとっては、日常生活の中で病気や介護が必要な状態になること、自然災害の被害にあうことなどに不安を感じるとしており、これらの不安要因を軽減し安全で安心な暮らしを営むため、地域活動などを通じた健康状態の確認や災害時の避難対策など各種の支援も必要であろう。

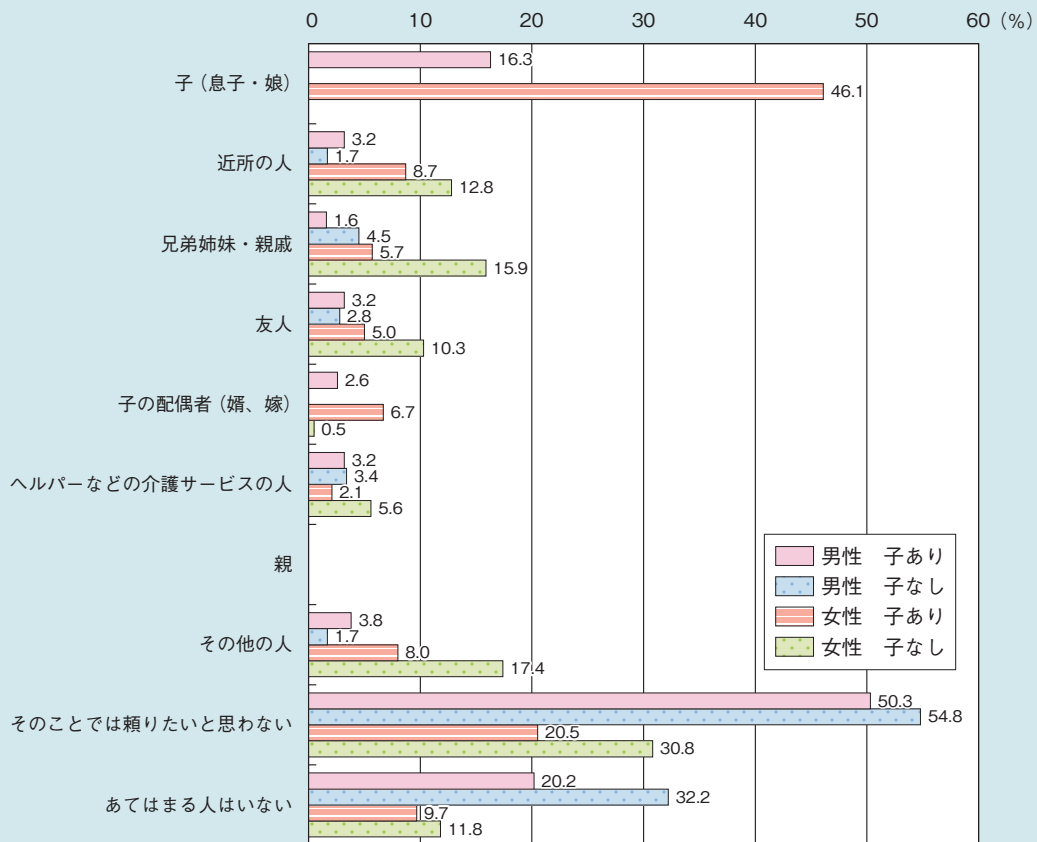
## 2 人とのつきあいに関する意識

### (1) 男性の多くは、ちょっとした用事では頼りたいとは思わない、あるいは頼める人がいない

日常のちょっとした用事を頼みたい相手を見ると、子供がいる女性は「子」（46.1%）が最も多く、次いで、「そのことで頼りたいとは思わない」（20.5%）となっている。子供がいない女性は「そのことで頼りたいと思わない」（30.8%）が最も多く、次いで、親戚や友人以外の「その他の人」（17.4%）、「兄弟姉妹・親戚」（15.9%）、「近所の人」（12.8%）と多様である。

一方、男性は子供の有無に関わらず「そのことで頼りたいと思わない」が最も多く（子供あり50.3%、子供なし54.8%）、次いで「あてはまる人はいない」が続く（子供あり20.2%、子供なし32.2%）（図1-3-4）。

図1-3-4 ちょっとした用事を頼む人（複数回答）

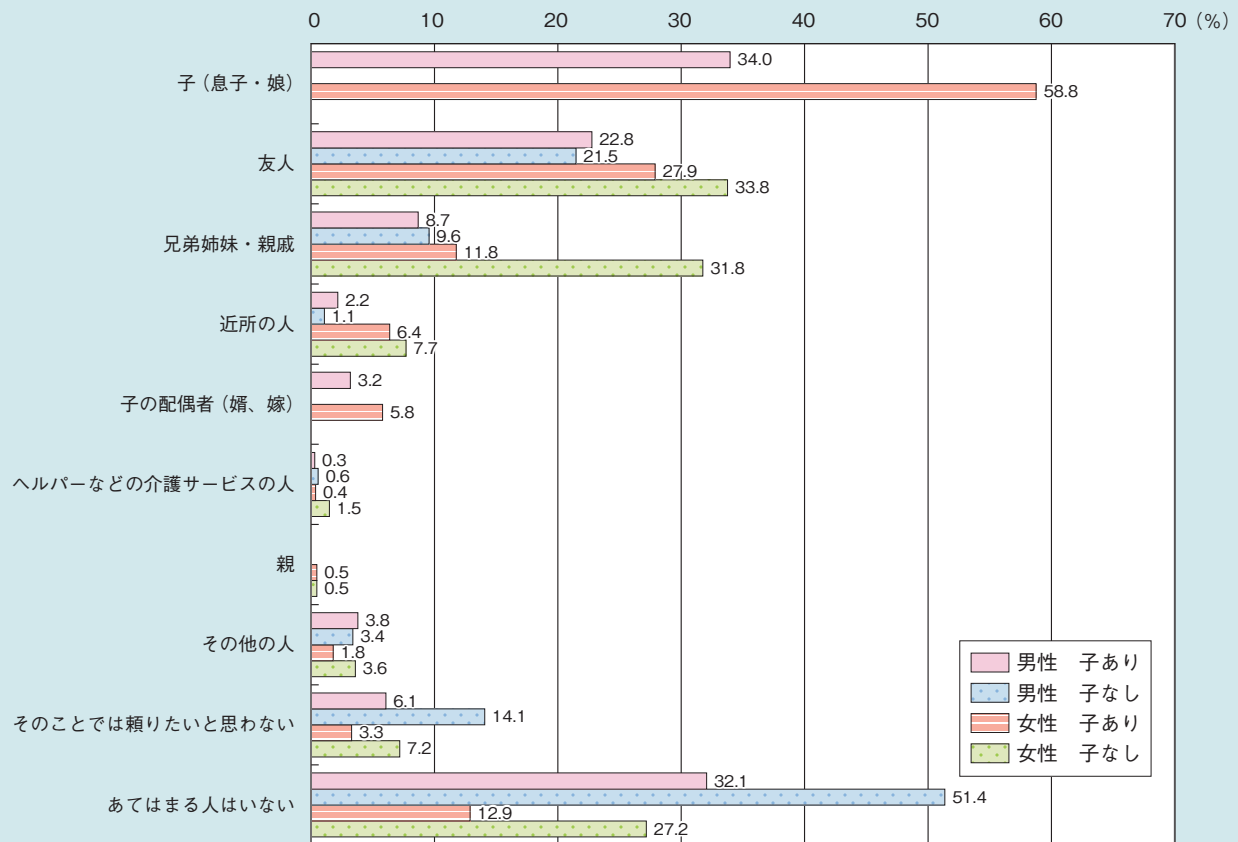


資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

**(2) 一緒にいるとほっとするのは子。そのほか男性は「あてはまる人はいない」、女性は「友人」が多い**

一緒にいてほっとできる相手を見ると、子供がいる人については、男女とも子（男性34.0%、女性58.8%）が最も多いが、次いで、男性は「あてはまる人はいない」（32.1%）、女性は「友人」（27.9%）となっている。一方、子供がいない人については、男性は「あてはまる人はいない」（51.4%）が半数以上となり、女性は「友人」（33.8%）、「兄弟姉妹・親戚」（31.8%）、「あてはまる人はいない」（27.2%）と多様である（図1-3-5）。

図1-3-5 一緒にいてほっとする人（複数回答）

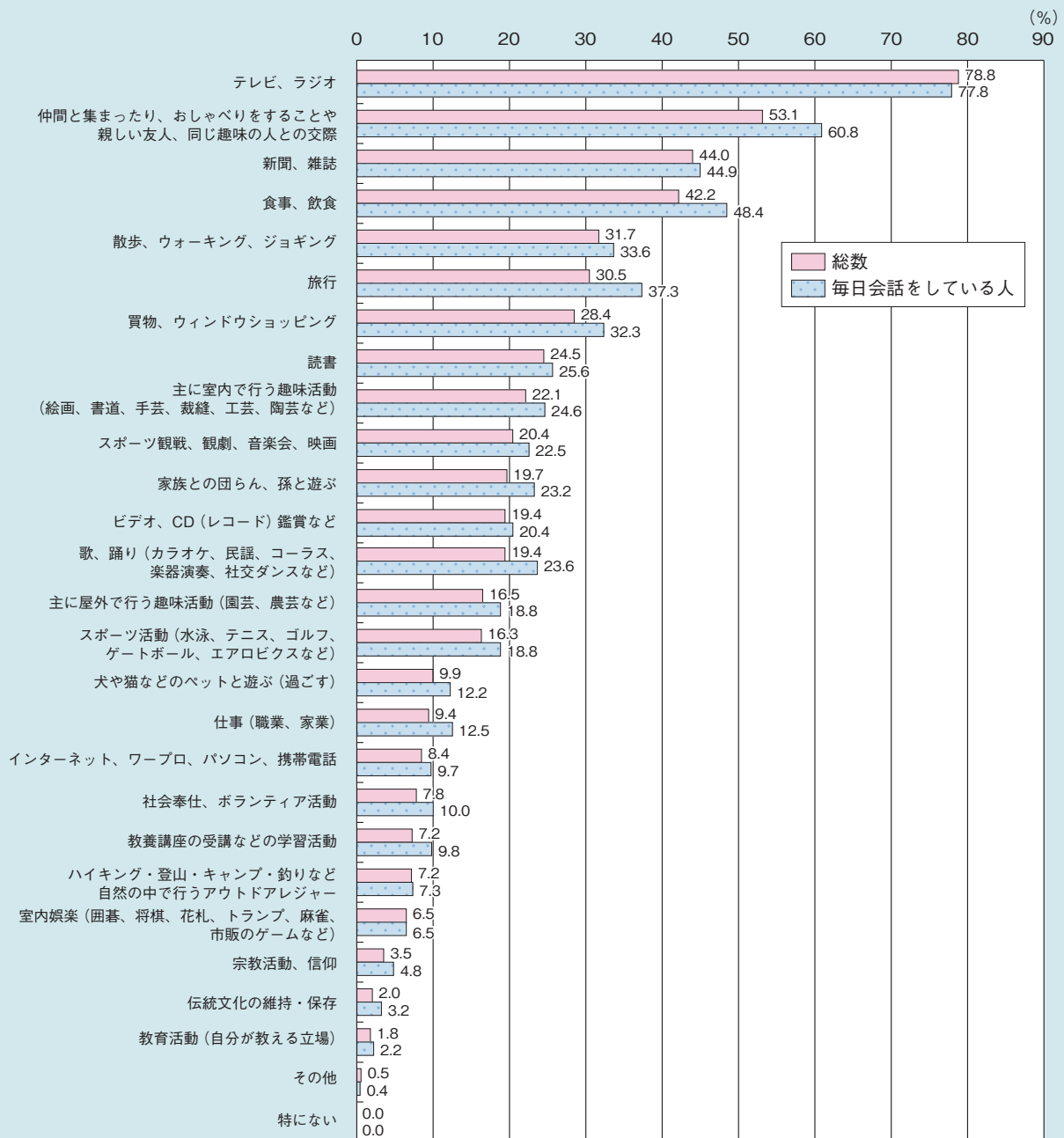


資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

### (3) 会話の頻度が高いほど楽しみが多い

一人暮らし高齢者の「現在の楽しみ」の上位5位をみると、「テレビ・ラジオ」（78.8%）、「仲間とおしゃべり」（53.1%）、「新聞雑誌」（44.0%）、「食事」（42.2%）、「散歩、ウォーキング、ジョギング」（31.7%）、となっている。会話の頻度別にみると、「毎日会話している」人はほとんどの項目で総数を上回っており、楽しみ幅が広いといえる。また、毎日会話している人の上位5位をみると「散歩、ウォーキング、ジョギング」にかわり「旅行」（37.3%）が5番目に多い（図1-3-6）。

図1-3-6 現在の楽しみ（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年度）  
 （注）対象は65歳以上の一人暮らしの男女

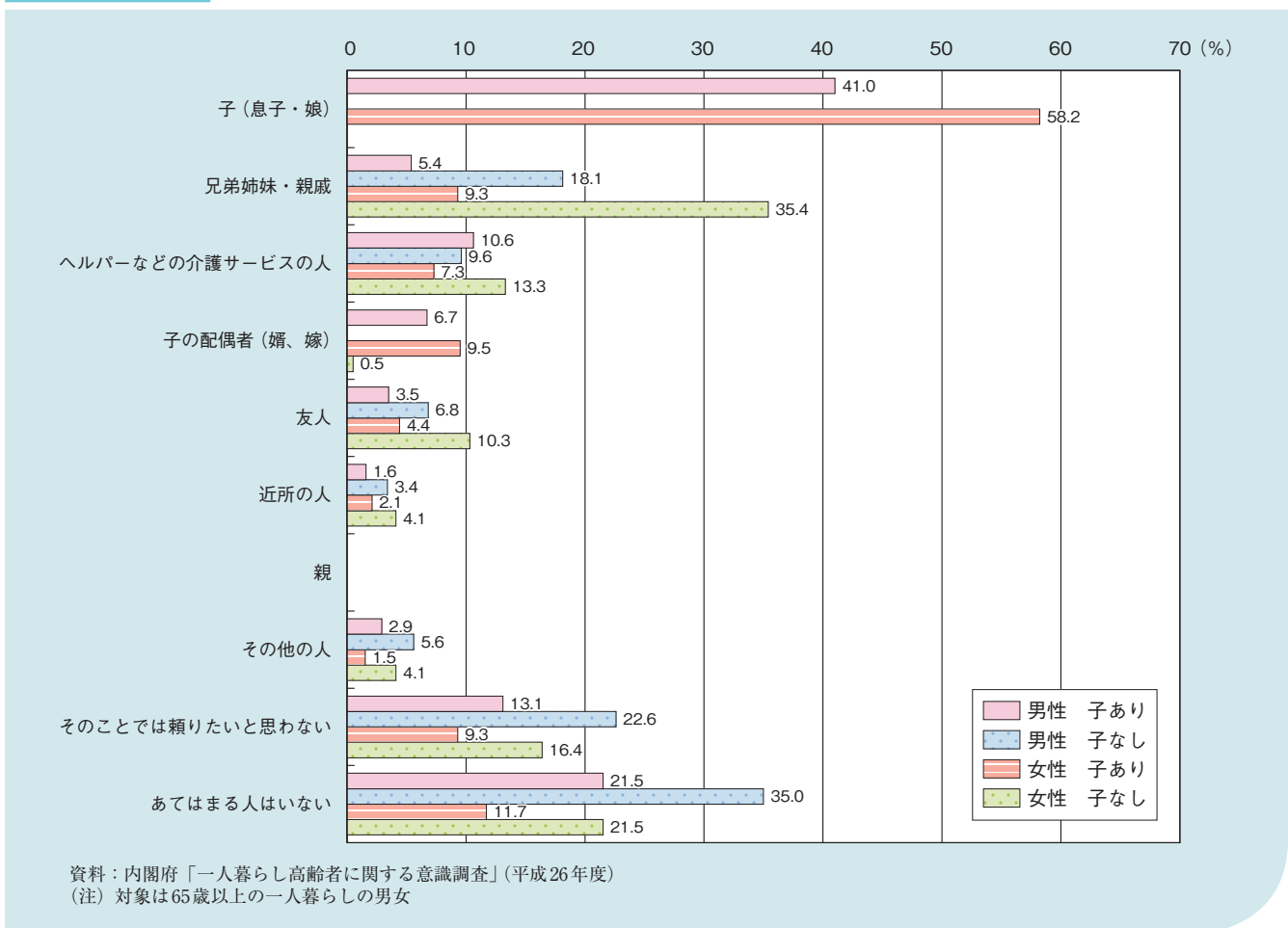
子供のいない一人暮らし高齢者にとっては、特に男性において、一緒にいてほっとできる人や日常のちょっとした用事を頼むことができる人がいないという者が多い状況であり、子供や兄弟姉妹・親戚のような垣根の低いつきあいができる、地域の環境づくりが必要であろう。

### 3 将来の準備に関する意識

#### (1) 子供のいない男性は、約1/3が看護や世話を頼みたい相手がない

病気のなどの時に看護や世話を頼みたいと考える相手は、子供がいる人は男女ともそれぞれ「子」が41.0%、58.2%と最も多い。子供がいない女性は、「兄弟姉妹親戚」(35.4%)が最も多く、次いで「あてはまる人はいない」(21.5%)となっている。一方、子供がいない男性が頼りたい相手は「あてはまる人はいない」(35.0%)、次いで「そのことでは頼りたいと思わない」(22.6%)となっている(図1-3-7)。

図1-3-7 頼りたい人(看護や世話)(複数回答)



#### (2) 要介護度が低ければ「現在の自宅」で介護を希望する人が約2/3

日常生活において介護を必要とする程度別に一人暮らし高齢者の希望する介護場所をみると、日常生活能力がわずかに低下した状態では、「現在の自宅」(66.6%)が最も多く、「介護施設」(10.3%)や「高齢者向けのケア付き住宅」(9.5%)は、それぞれ1割程度となっている。

また、排泄や入浴などに一部又は全介助が必要な状態になると、「現在の自宅」(27.0%)と「介護施設」(29.2%)がほぼ同程度になる。さらに、一人で立ち上がったり、歩いたりできず排泄や入